

甲佐町議会だより

第99号

平成14年1月31日



清流

町の元気は、人の元気から

五月まで、毎週日曜日に開かれる
グリーンセンターの元気のあるセリ売り

今後の予算の使い道に意見

住民も町も議会も反対だ

緑川の水質調査を 考えないか

入札制度の改善が必要ではないか

一般質問

2人

6P〜

3P

2P

こんなことが決まりました

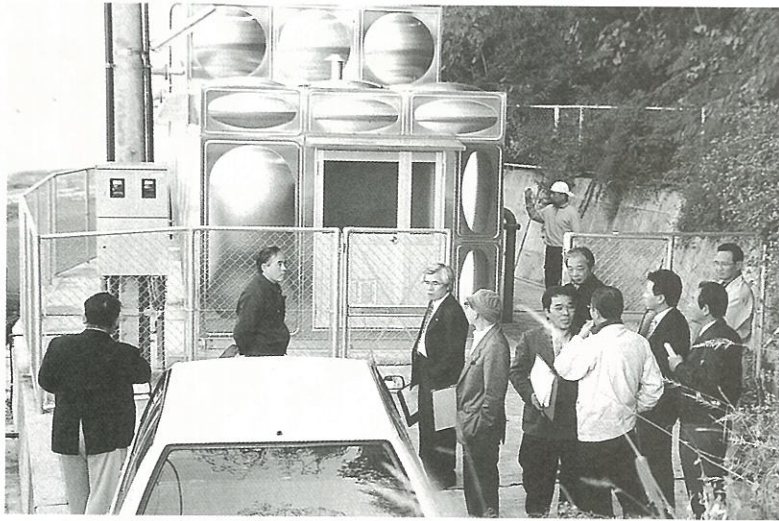
期日	曜日	会議の種別	審議内容
12月14日	金	本会議	決算、条例、規約
17日	月	本会議	一般質問
18日	火	本会議	補正予算、請願・陳情

12月議会は12月14日に召集され、表の日程で行われました。

今・議会に町長から提出された議案は12件。この外に、9月議会からの継続審査となっていた決算の認定7件と、請願や陳情の審議が加わりました。町長提案の12件は、町・条例の制定や改正、組合格約の一部変更、補正予算案というものでした。

17日の一般質問の様子は後のページに紹介していますのでご覧下さい。

ここでは決算審査の結果と、世持区から提出された請願について紹介します。



昨年度のお金の使い道を確認する特別委員会

決算は認定するが

決算の審査は、9月議会
で特別委員会の継続審査と
なっていたことは、「清流」
の前号で紹介した通りです。
特別委員会では、継続審
査が終了した事を受けて、
その結果を議会に報告しま
した。

報告の骨子は次の通り。
一、何にいくら使われたか
の数値的なことは、監査委
員から「間違いはなかつ
た」と認められているから、
特別委員会では、審査に力
点を置かなかつたこと。

一、あらかじめ議会が認め
た予算の趣旨に沿ってお金
は使われており、特に適性
を欠くものは、見受けられ
なかつたこと。
一、お金を使うに当たって
は法令に沿って使われてお
り、でたらめな使い方はさ
れていなかったこと。

一、財政の経営体質は、こ
れまでどおり決して良好と
は言えないから、これから
も改善に努めてほしい。
以上のような理由から昨
年度のお金の使い道に秩序
が無かつたとは認められな
い。その結果として「決算
は適正なものだった」と認
める。

今後の予算の使い道と意見

しかし、全く問題が無
かつたわけではなく、幾つ
か指摘しなければならぬ
こともあつたので次の意見
を述べる。(以下、皆さん
に身近な事柄だけを、紹介
します。)

受診率の向上を高める意
味合いが高いということだ。
しかし、この健診は国民健
康保険の該当者だけでなく、
町民全員が受診できるとい
うことを知らない人が多い。
もっとPRするべきだ。

からすると余暇の2日の過
ごし方が問題となるから、
青少年健全育成町民会議や
子ども会、PTAなどの連
携で、時代にふさわしい対
応や施策の展開を期待する。
◆◆◆

①税金などの滞納が増加の
傾向にあるが、徴収に向け
て努力の跡が見受けられる。
しかし、もっと徴収の仕方
に工夫して欲しい。

③今日の農業経営はさまざま
まな条件により相当厳しい
経営を強いられている。低
迷している今日の農業だか
らこそ、軟弱野菜を始めと
する甲佐ブランド商品の開
発など町独自の農業政策を
JAと連携して模索して欲
しい。

こうした特別委員会の報
告を受けた議会は、この報
告を了承し、同時に、特別
委員会が指摘した意見はそ
のまま、議会の意志だとす
る「意見付きの認定」を議
決して、決算は了承されま
した。

②健康作りのための住民健
診は、これまで受けている
人と、いない人に分けて分
析すると、受けていない人
が病院にかかる割合が格段
に高い。

④今年4月から学校完全週
5日制が始まる。子ども達

決算の概要とその中身は「広報
こうさ1月号」で紹介していま
すので、ここでは省略します。

麻生原の産廃施設 拡大・変更にも反対

12月議会で

18日、請願書の審議が行われました。
請願を議会に提出したのは世持区の区長や
住民を中心とした皆さんで、その問題は麻生
原で営業している産廃施設のことでした。

経過

請願の要旨は次の通り。

①麻生原の産廃施設は、(有)星山建設工業が平成6年に開設。処理する廃棄物の種類は、主として建設廃材であり、この他に陶磁器屑、金属屑に限定したものであった。この場所は麻生原でも、環境への影響を受けるのは、世持区である。

②平成8年になって星山商店がこの産廃施設を買収したが、甲佐町と締結していた「環境保全協定書」はそのまま引き継ぐ旨の誓約書が出されている。

反対の理由

③昨年、星山商店は、産廃施設の敷地を拡大し、なおかつ、取り扱う種類を大幅に増やす計画を熊本県に提出した。

①(有)星山建設工業と(株)星山商店は、もともと兄弟会社。営業を引き継ぐことも、施設を拡大・変更することも当初からの既定路線に違いないし、地元無視も常套手段に違いない。
②なぜなら、営業を引き継いだ場合にも、今回の施設の拡大・変更の場合にも甲佐町への事前協議ナシに、

密かに県へ事前申請を行っている。協定内容の無視が何よりの証拠だ。
③こうした星山関連会社の

④なぜなら、星山関連会社は施設周辺に広大な面積の土地を既に密かに購入している。これは協定内容を無視する同じ手口で、谷間を産廃の処理物で埋め立てる

請願の主旨

事を狙った布石であると思えない。

地元はこれ以上の拡大や変更には断固反対である。今でも粉塵の悪影響が発生しているのに、今後は更に、流水や地下水の悪影響が考えられるから、命や生活が脅かされる。議会はこれを理解し、反対のために尽力して欲しい。

こうした願意に議会は満場一致でこれに賛同し、請願書を採択。更に、議会に与えられた権限「意見書の提出権」を行使し、「反対の意見書」を熊本県知事に対して提出することも決議しました。

そして議会終了後の12月25日、地元住民、乙女校区の全区長、区長会の校区代表区長、土地改良区、町、議会は、熊本県に対して「甲佐町の住民も、町も、議会も反対」の意思表明の行動を行いました。

更に1月16日、同じメンバーは、熊本市武蔵が丘9丁目にある星山商店・本社工場に向き、「甲佐町の住民も、町も、議会も反対」であるから計画を白紙撤廃するよう強い働きかけを行います。



熊本県に反対の理由を説明する住民代表者（12月25日）

住民も町も議会も

反対だ



住環境を脅かされる産業公害は絶対反対の士気を鼓舞する住民の皆さん（1月16日）

12月議会の補正予算。この審議の中で聞きたかったことを聞きました。

これだけは
聞いておきたい

Q & A

論 点

「学童保育」

来年度から甲佐校区対象に開始、
来年度予算で教室を改修!!

Q 1 学童保育を4月から開始するにあたり、利用申込者数ほどのような状況か。

A 1 正式には「放課後児童クラブ育成事業」と言うが、当初乙女小学校を対象に調査した結果、補助対象者の実施規定数10名に不足した為、甲佐小学校を調査

した結果、希望者数が約80名、内、補助対象者が10名程度該当するので来年度途中からでも実施したいと考えている。財源についてもこれ迄は、運営費のみ国の補助の適用があったが14年度からは、施設の内部改修についても該当する方向なので、それについても国に要望している。他校区についても現在、実質調査を行ってないが、希望があれば行いたい。

Q 2 事業実施に必要な10名の補助対象者がないがために甲佐校区だけしか実施できないというのは問題である。全校区で学童保育を受ける。全校区で学童保育を受けてくれる様に他校区併せて10名が確保できた場合の措置は、どうなるのか。

A 2 その様な場合には、事業実施は可能であるが拠点施設の検討が必要である。

A 3 概ね10〜20名の指導員を確保したいと思っているが、経験者が必要でもあり該当する方がいれば検討したい。

Q 4 来年度途中から実施するのではなく当初は年度初めから行う予定ではなかったのか。

A 4 乙女小から甲佐小に実施対象校が移った事により、甲佐小学校では実施のために、現在の一年一組の教室を改修しなければならぬ。このために年度途中からの実施を考えていたが、当初からの開設を行いたい。

Q 3 学童保育を実施するには指導員が必要だが町では、14年度からシルバー人材センターを設立すると聞いている。そこからの派遣も検討してみようか?

Q 5 中山間地整備事業について、中山間地整備事業につ

「中山間地整備」
完成は、地元町民の願い、
予定通りの事業完遂を!!

いては、事業の優先順位をつけて、現在進められているが進捗状況を聞きたい。



学童保育が始まる甲佐小学校

A5

当該事業については平成11年度採択され17年事業終了予定で現在、進められている。県の財政が厳しく、事業は3年間延長される見込みである。進捗状況については、農道7本の調査、測量を完了、農道改良工事2本を本年度発注予定である。

Q6

県財政が厳しいことを理由に、県に要望している事業が実施されない場合、町が事業主体となっても事業遂行に向けた考えが必要と思うがどうか。

A6

町の単独事業は大変負担が重いが質問の点については、別の事業を検討して対応したい。

Q7

下豊内地区農道については測量・設計の段階で文化財が出現し、現在、中断しているが今後の方針を聞きたい。

A7

県の文化課、県の農業振興課と十分協議し、早い時期に文化財のエリア指定をし、14年度には、該当区域を迂回する測量を実施したい。



農道の整備を待つ免ノ山。文化財が出現してその成り行きが心配。

不登校問題、真剣に取り組み!!

Q8

不登校生徒問題については、数学的には僅かな数では、

も事は重要な問題と思う。

民生委員や福祉関係者との連携も図る必要性を感じるが、どういった取組をされているのか。

A8

学校週5日制に伴う子どもたちの生活のあり方等に

地方交付税、本年度は前年対比約1億円減少

Q9

今回の補正予算で地方交付税を8557万程増額計上されている。本年度の普通交付税の決定額と特別交付税の見込額を聞きたい。

A9

今回の補正額を合計した19億9557万3000円が普通交付税の決定額であるのか。

ついては社会教育委員の方に諮問してあり、その答申が問もなく提出される。その答申書を受け様々な点で検討、施策を考えている。また、た民生児童委員の方々と任児童委員、地域の方々と連携を密にし、子どもたちの健全育成に努めていきたい。

り、昨年度と比較して1億700万円程度少ない。特別交付税についてはまだ決定を見ていないが昨年度に比べ数千円円の減額を予想している。

炭疽病苗木の原因究明を急げ!!

Q10

花卉園芸の農家では、この夏、苗が枯れる炭疽病の発生で非常に苦労されている話を聞いている。原因の究明には難しい点もあるかとは思いますがどの様な対応を

A10

地区の苗の炭疽病の対応については、県の普及センターの技術部員の方と現地調査を行い資料を持ち帰り現在調査中である。



炭疽病が心配される園芸作物



ここが聞きたい!



福祉科を備えた甲佐高等学校

緑川の水質調査を考えないか

北畑常博議員

北畑議員

緑川の環境を充実させるために、緑川ダムの選択取水の問題がある。

当初は、150億以上かかる話が、縮小を重ねて、今の計画でやられたら、2年もたたないうちに、汚れた水が流される可能性もある。

そこで、本町自らが、環

境を考えて、自主的に、水質検査を考えないか。

町長

今日、緑川の水質が悪くなっている。そこで、四方十川方式を調査研究しているところで、今後とも浄化については、全力を尽くしていく。

水質調査については、国土交通省と話し合って、力を入れて研究していく。

北畑議員

甲佐町には、清正公、細

このページは、一般質問の紹介です。

教育を

まちづくりの

基本にしていく

北畑議員

中高一貫教育について、再三に渡り検討する様にと質問してきた。また、今後のまちづくりをするのに、町村合併の問題も出てくるが、本町には、中学、高校があるので、ここを重視して進めることが大事だ。優秀な人材を地元の高校で教育して、地元のためにがんばろうとするそういった人材育成を考えるべきだと思うが、どうか。

教育長

中高一貫教育については、県の高校教育課に、申し入れをしたが、現在の状況では、本町での導入は、無理だと考えている。

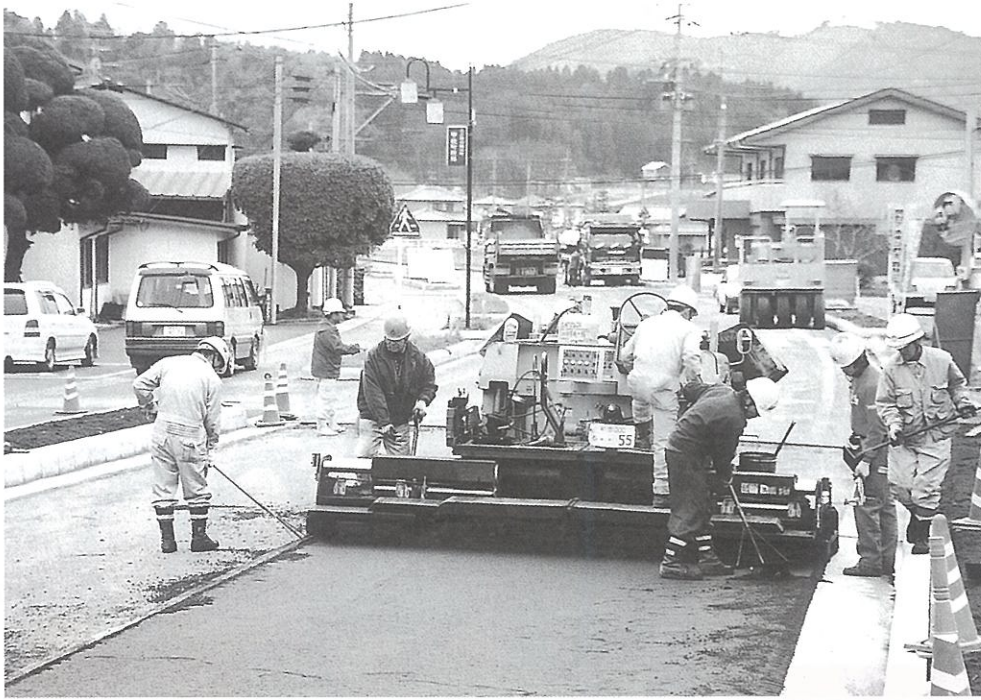
しかし、中、高での交流授業や、合同の行事参加や、ボランティア活動の協力等を含めた、連携を計っていく。

人材育成の面では、本町の生徒の学力の向上を計り、研究し、教職者OBの力を

借りて充実させたい。

町長

現在、大半の中学生が町外の高校に進学しているので、地元に残る方策を考える必要がある。また、甲佐高校に魅力が欲しいと思います。以前、福祉科を作っても良かった。今後とも、校長先生等と話をしていきたいし、人材育成基金を活用して、生徒の育成をしたい。



役場前の、岩下・益城橋線の改良・舗装工事

入札制度の改善が必要ではないか

佐藤義郎議員

佐藤議員

今年4月より11月まで、16件の入札が行われたが、そのうち6件が予定価格に對して99・4%で落札されている。全部の入札件数の40%が99・4%ということに疑問を感じる。又40%、50%の価格による工事が特別に支障のある工事になっているとは思われないし、

町長 現在、工事入札参加者資

予定価格に對して、99%ぐらい近づけなくても、もっと低い価格でできることを示している。特に大きい工事ほど、入札価格のパーセントが高い。この結果から、指名入札でなく、一般競争入札制度を取り入れるべきではないか。

格審査格付けを行い、ランクごとの指名をし、今年4月より、試行であるが、予定価格の事前公表を取り入れ、契約手続の透明性と公平性をより高くするため、この方法を取っている。指摘の一般競争入札については、今後出てくる大型工事等に配慮しながら、電子入札も考えて行きたい。

低所得者に減免措置を望む

佐藤議員

12年度の介護保険の決算の結果では5778万円の実質収支が出ているが、この介護保険で特別利益を上げる必要はない。決算の中で、大きな問題は、介護サービスがあるが、この中で4700万円の不用額が出ている。予算の見込み間違いはないのか？1割負担についての軽減措置としてはどうなのか？自治体としての判断を求める。

町長

5778万円の实質収支については、4626万8000円を償還金として返還している。介護給付費については1100万円を準備基金として積立てている。

町長 準備として積立てている。高齢化による医療費の増と介護保険料の増は同じではない。全国で約1割ぐらいの市町村は軽減措置をとっているが。

町長 この結果として軽減措置をやってもよいのではないか。

町長 高齢化がどんどん上がって行く、将来の介護給付費

方針として、現行制度の中で対応しながら、3年毎の見直しがあるので、県を通じて、意見を述べたい。

このページは、一般質問の紹介です。

正式に開所

4月から

旧・営林署跡地に建設中だった「甲佐町農業研修センター」が、4月から「ろくじ館」として正式に開所します。



「ろくじ館」での青空市場の“経営会議”に臨んだ“経営者”の皆さん（写真、右・左）



傍聴席から一言

船津 日隈俊郎

この建物はおよそ9千万円弱の県営事業分ですが、完成後は県が甲佐町に譲渡し、管理・運営を任せることになっていました。町では、建物の完成を受けて、3月の議会に、管理・運営・使用料などを定める条例案を提出する予定。愛称も「ろくじ館」に内定しており、4月以降は、研修会議や調理実習、特産品開発の拠点となり、青空市場も開かれます。

道路行政を思う



ミレニアムに浮かれた一昨年、将来に淡い期待を抱き、21世紀となった昨年、日本の改革を謳うリーダーが生まれた。今年、そのリーダーの「痛みを伴う改革」は依然として高支持率に支えられている。「痛み」の体感は、未だ許容範囲ということか。さて我々議員は、住民の末端の代表として、今話題

編集後記

の町村合併という難問を抱え、模索しながら勉強している。

また今回「清流」は99回目を迎えた。次は100回目という節目で記念誌として取り扱うこととなった。

甲佐町の過去の議会活動を振り返り、反省を込めながら編さんするものである。記念号は皆さんの「声」を載せる意向ですので、ご協力をお願いするものです。

船津の区長をしていた時のことですが、大雨が降って山口部落の裏通りが、船津原や船津山から流れてきた水が、側溝からあふれ出て、道路は膝まで達するほどになり、家の前庭や小屋の中まで流れ込みました。

私は区長として、建設課に道路と側溝の改良を相談に行きました。

ところが建設課は、「あそこは町道ではありません。里道ですから、材料は支給

しますが、区でやって下さい」と言われました。区でやれるような簡単な工事ではなく、大変こまりました。町道になっていて、殆んど使われていない道もあれば、里道でも大変重要な生活道もあります。町道でないというだけで、大変重要な生活道が、区では手に

いものことです。議会としても御検討をお願いします。